

# 学生による子どもを対象とした運動遊びの指導について-2012年度

著者	増山 尚美
雑誌名	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報
巻	4
ページ	31-38
発行年	2013
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00001088/">http://id.nii.ac.jp/1136/00001088/</a>

学生による子どもを対象とした運動遊びの指導について  
－2012年度

Report on Movement Instruction of Physical Activities for Children and Small  
Children by the University Students in 2012 - 2013

増 山 尚 美  
Naomi MASHIYAMA

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報 第4号 2013

Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Research Center Hokusho University Vol.4

## 学生による子どもを対象とした運動遊びの指導について －2012年度

### Report on Movement Instruction of Physical Activities for Children and Small Children by the University Students in 2012 - 2013

増 山 尚 美

Naomi MASHIYAMA

キーワード：運動遊び，こども，指導力

#### I. はじめに

子どもの体力は昭和60年ごろから低下傾向が続いていたが、近年の取り組みによってわずかではあるが向上の兆しが見えてきた。しかし、全国体力・運動能力テストの結果によると、北海道は依然として全国平均との差が大きく、順位も40位台と下位に停滞している。

平成18年度から江別市教育委員会と大学とが連携し、江別市地域スポーツクラブ（通称きらり）のプログラムの一つである「ちびっこスポーツ教室」の指導を、北翔大学生涯スポーツ学部の学生が行ってきた<sup>1)</sup>。目的は①子どもの体力向上、②大学と地域との連携～大学の資源を利用した地域貢献、③学生の現場実習の機会と指導力向上の3点である。当初は募集に応じた学生がボランティアで指導に当たっていた。平成22年からはスポーツ教育学科3年次の科目である「専門演習」と連動させ、前述の3つの目標を踏襲するとともに、学生が体験を通して指導力を向上させるトレーニングの場としてより有効な方法を検討している。今回は、平成23年度に実施された活動のうち、主に4年次学生が指導を行った江別市地域スポーツクラブ「きらり」と、主に3年次学生が指導を行った千歳市体育協会主催幼児教室の事例を報告する。それとともに、学生の評価シートと感想文から、指導体験による効果と課題を明らかにする。

#### II. 江別市地域スポーツクラブ(通称きらり)児童対象プログラム「ちびっこスポーツ教室」の指導

「ちびっこスポーツ教室」は、江別市上江別地区で行われている地域スポーツクラブにおける小学校1年～3

年生を対象とした運動遊びの教室である。活動場所は上江別地区にあるA小学校体育館とグラウンドである。週1回90分の活動を、年間2期各10回ずつ実施している。平成24年度は第1期が6月11日から9月10日、第2期が10月1日から2月18日の期間に実施された。指導には本学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科4年次のゼミ在籍者7名と3年次「専門演習」履修者から3名、および有志の学生2名が当たった。児童の参加人数は、1期14名、2期13名（継続者含む）であった（表1）。「きらり」は全市対象の事業であるが、参加者は同校の児童のみであった。各回のプログラムと指導学生数は表2、表3の通りであった。1期、2期共に指導2年目になる4年次学生が毎回指導を行った。

表1 2012年度「ちびっこスポーツ教室」参加児童の学年と性別  
第1期 (人)

性別	学年		
	1	2	3
男	2	5	2
女	1	2	2
計	3	7	4

第2期 (人)

性別	学年		
	1	2	3
男	3	5	2
女	1	1	1
計	4	6	3

表2 2012年度「ちびっこスポーツ教室」プログラム〔第1期〕

回	日	テーマ	内容	参加児童数	指導者数
1	6月11日	自己紹介・体力測定・鬼ごっこ	○自己紹介ゲーム：身振りで誕生日を示し、1月生まれの人から並び、自己紹介する。○体力運動能力テスト：握力、長座体前屈、上体起こし、立ち幅跳び、ソフトボール投げ。○鬼ごっこ	14	4
2	6月18日	縄跳び・フープ	○体力運動能力テスト：反復横とび ○フープ：腰回し、転がし〜くぐり、転がし〜跳び越し ○縄跳び：短縄で前跳び、後ろ跳び、交差跳び、二重跳び、走り跳び。長縄で大波小波、回し〜くぐり、通り抜け、1回跳び、連続跳び、8の字跳び、全員連続跳び。○手つなぎオニ	13	3
3	6月25日	バランスボールとリズム運動	○リズム運動：ピアノに合わせスキップ、ギャロップ、ゆっくり歩く、這う、転がる、走る（速く〜遅く）、音が止んだら止まる、など ○物まねごっこ：2人1組鏡になって相手のまねをする。○動物物まね「ゴリラが冷凍庫に入ったら」全員でゴリラになったり、凍ってポーズをとったり、ゆっくり融ける動きを表現したりする。	12	4
4	7月2日	ボール遊び（投げる・とる）	○ボール鬼ごっこ ○ボール渡し：1列になり、頭越し、股下くぐらせてボールを送る。○股下転がし走り：先頭がボールを転がし1列に並んだ6人の股下をくぐらせ、同時に走ってキャッチする。○ボールはさみ：2人で1個のボールをバウンドさせて身体部位で挟んでキャッチする（おなか、背中）、挟んで1周回転。○的あて：5mの距離で、ボールを投げの倒す。○大玉転がし：4人1組になってリレー。コーンを回って折り返す。	12	3
5	7月9日	器械運動 （写真1）（写真2）	○オセロ：2チームに分かれ、直径20cm位の円形の盤をひっくり返しチームの色にする。○スタート→スキップゾーン→バランスわたり（ストレッチボールハーフの上の不安定なところを渡る）→低い平均台→跳び箱（5段か7段）を越す→ゴール ○平均台じゃんけん ○跳び箱：横跳び、開脚跳び。	14	4
6	7月23日	ニュースポーツ（フリスビーとドッジビー）	○体力運動能力テスト：50m走 ○フリスビー2人組 ○ドッジビー	14	5
7	8月20日	コミュニケーションゲーム①	○ミニハードルを用いた速くはしるコツ ○手つなぎオニ ○ハンカチ落とし ○猫とネズミ：2人組で「猫」と「ネズミ」役を決め向き合い、リーダーのコールがあった方が逃げ、もう一人が追いかける。壁まで逃れたら勝ち。	14	9
8	8月27日	コミュニケーションゲーム② （写真3）	○ミニハードルを用いた速くはしるコツ ○増やしオニ ○大根抜き ○ボール・リレー：2チームでボール渡しとボール運びのリレーで競う。	14	10
9	9月3日	ボール遊び（サッカー型〜蹴る・野球型〜打つ）	○体力運動能力テスト：50m走 ○ボールステッピング ○ボールはさみパス：足で挟んで相手に投げ渡す。○ボール蹴りリレー：行きはドリブル、折り返したらボールを持って走って戻る。○サッカー：体育館全面を使い壁をゴール。	14	3
10	9月10日	運動会 （写真4）	○障害物走：①ケンステップ②走り縄跳び③低い平均台わたり④フラフープくぐり⑤お玉で卓球の玉運び⑥ストレッチボール（ハーフ）渡り⑦跳び箱踏み越し ○風船リレー：2人で風船を挟んで運ぶ。○布演技：大きい布を全員で持って膨らませたり、ボールを弾ませたりする。○綱引き ○リレー ○集合写真撮影	13	5

表3 2012年度「ちびっこスポーツ教室」プログラム〔第2期〕

回	日	内容		参加児童数	指導者数
1	10月1日	オリエンテーション・自己紹介・レクリエーション	○新加入者の紹介 ○鬼ごっこ	12	3
2	10月15日	ボール遊び（蹴る・投げる）	○鬼ごっこ：柔らかいボールを使用し投げて当て、オニ交代。 ○的当て：ボールを投げてペットボトルを倒す。 ○サッカー：①パス練習、②ボール・ダッシュでコーチがけたボールに追いついて止める③ゲームは体育館全面を使用し壁にコーンのゴール。	12	3
3	10月22日	縄跳び・バランス運動	○ろうそくオニ ○ドッジボール：①子どもが内野、コーチが外野②3面ドッジボールで、3つのコートを三角に向かい合わせて対戦する。 ○ボール釣り：平均台を渡って、上からボールを釣り、落とさないように戻る。	13	5
4	11月26日	ボール遊び（打つ・とる）	○鬼ごっこ（けいどろ） ○キャッチボール：スポンジボール使用。 ○ポートボール：ドリブルはなし、パスのみでつなぐ。 ○トス・バッティング ○Tボール・ラン：2チームでおこなう。Tに載ったボールを打ったらベースに向かって走る、守は捕球したらベースマン（コーチ）に送球する。チーム全員が打ったら交代する。	10	3
5	12月3日	ニュースポーツ	○しっぽ取り鬼ごっこ ○ミニテニス：①1人でラケットお手玉②コーチが出した球をワンバウンドで打つ③コーチとラリー④的当て：壁に貼ったフラフープ的に当てる ○ラケットお玉リレー：ラケットに玉を乗せて走る。 ○ポートボール：①シュート練習②キャッチボール③ゲーム	13	3
6	12月10日	リズム運動・ダンス	○手つなぎ鬼ごっこ ○まねっこダンス：コーチのまねをして踊る ○2人1組でリズム運動：両手ぶらぶら、全身ゆらゆら、捻じる、まわる、コーヒークップになって手をつないで回転する。 ○1列じゃんけん：フォークダンス「ジェンカ」の曲でステップしながら移動し、出会った組とじゃんけんしてつながっていく。 ○円形コミュニケーション：円になってギャロップ、手をつないで円心や円外に移動。 ○森のサーキット：森だったらと想像して山（跳び箱）を登り、川（マット）を這って泳ぎわたり、一本橋（平均台）をそって渡る、など。 ○ポートボール：シュートしたらゴールマン交代、ドリブルも加える。	13	4
7	1月21日	器械運動	○ダッシュ ○みんなで握手：コーチが指定した数の人と握手する。 ○マット運動：横転がり（1人、2人手つなぎ、両側から転がりじゃんけん）、前転、前転ジャンプで次のマットに跳び前転。 ○跳び箱：馬乗り、カエル乗り（横）、開脚跳び。 ○サーキット：スタート①マット（横回り、前転）②跳び箱③平均台④走って戻る。	12	2
8	1月28日	雪遊び （写真5）	○雪上ビーチフラッグ：長座や腹這いなど色々なポーズからスタート ○雪玉ストラックアウト ○橇滑り：ミニソリやビニール袋で斜面を滑る。 ○雪つみ高さ競いゲーム：3チームに分かれ雪山の高さを競う。	9	5
9	2月4日	雪遊び	○ボール遊び：①コーチが投げたボールを走って取りに行く。②キャッチボール ○シュートボール：ポートボールのルール ○雪像づくりコンテスト ○障害走：フラフープのトンネルをくぐったり跳び越したりして走る。 ○宝探し：コーチの隠したボールを見つける。 ○だるまさんがころんだ	11	2
10	2月18日	運動会 （写真6）	○ダッシュ ○凍りオニ ○綱引き ○玉入れ ○大玉転がし ○リレー ○サーキット①布くぐり②3本の縄を順に跳び越す③ケンパのステップ④障害跳び越し	13	8





写真1 ちびっこスポーツ教室 器械運動 オセロ



写真4 ちびっこスポーツ教室 第1期運動会 布演技



写真2 ちびっこスポーツ教室 器械運動  
平均台じゃんけん



写真5 ちびっこスポーツ教室 雪遊び①  
雪玉ストラックアウトの準備をする学生



写真3 ちびっこスポーツ教室 コミュニケーション  
ゲーム② 大根抜き



写真6 ちびっこスポーツ教室 第2期運動会  
バランスボールを使った大玉転がし

### Ⅲ. 千歳市体育協会主催幼児教室

平成23年10月に、千歳市体育協会の要請を受け単発のイベントとして「みんなで遊んで元気 up」を実施した。参加者は4歳から6歳の男児21名女児9名の合計30名であった。指導は大学3年次学生8名と4年次学生2名の10名が当たった。事前準備として3年次学生が幼児の体

力についての学習とプログラム作成、用具等製作、指導リハーサルを行った。プログラムと狙いは表4のとおりである。指導は主に1つのプログラムをメインの学生1人から2人がリードし、残り8、9名がサポートに回るようにした。指導後に3年次学生を対象に10項目5段階尺度の「指導振り返りシート」と自由記述による自己評価を行った。

表4 「みんなで遊んで元気 up」プログラム

プログラム名	内 容	所要時間 (分)	運 動 と ね ら い
集合・整列・挨拶	色ごとに4グループに分かれて並ぶ	5	子どもの様子や体調の観察
リズム	キーボード演奏のリズムに合わせて動く	15	リズムに合わせて様々な姿勢やステップで移動運動
鬼ごっこ	コーチ3人が鬼になる	10	走る ・空間把握
仲間作り（陣取りケンケン）	丸い輪を並べた両端からケンケンでスタートし、出会ったところでじゃんけんする	10	バランス ・人とのかわり ・ルールやじゃんけんの勝ち負けを理解する
フルーツ・動物バスケット	フルーツ（動物）の絵がついた紙を首から下げ、円周上に並べた丸の上に立つ、中央のオニが言ったフルーツの人が別の丸に移動し、あぶれた人が次のオニになる	15	耳で聞き取った言葉によって動く動かないの判断をする ・空いた丸を見つけられる
集合写真撮影・休憩		5	
色々ボール	4か所に分かれ大きさや遠さが違う3つの箱に紙ボールを投げ入れ、4チームで入ったボールの数を競う	20	狙って投げる ・入りやすい箱を選んだり、遠くに投げる挑戦をする
サーキット	①紙ボールを1つ持ってスタート②布をくぐる③床に置いた縄4本をリズムカルに跳びこす④紙ボールを同じ色の箱に入れる⑤並べた輪の中を小走り、ゴール	25	ボールを持って走る ・連続跳び越し ・くぐる・走る・投げるを連続して行う複合的運動
クーリングダウン	動物の姿勢をまねてストレッチングや体操	5	（キリン）上に伸びる、（ゾウ）開脚で前屈体側伸ばし、（猫）肩や背中を伸ばす、（うさぎ）ジャンプ ・リーダーの姿勢や動きの模倣

#### 1. 指導に対する自己評価

指導振り返りシートは10項目を5段階で自己評価した（表5）（図1）。一番評価が高かったのはスタッフ連携であった。計画段階から3年次学生が8人で関わりリーダーとサブリーダーとが連携してチームで指導する形態であったため、必然的に学生指導者が協力し合う場面が多かった。プログラムはおおむねスムーズに展開し、特に時間配分は良くできており、自己評価も高かった。対照的に場の把握には戸惑いが見られ空間使用の評価が低かった。理由として、初めての会場で活動範囲や集合位置を設定する判断が要求されるのに加え、参加者とリー

ダー、サブリーダーの導線が本番まで具体的にイメージできていなかったことがあげられる。リーダーの意図がサブリーダーに十分伝わっておらず、サブリーダーが指示を待ち用具の準備や配置につくまでに時間のロスが生じる場面も見られた。自由記述からも、リハーサルの時間が十分でなかったこと、プログラムの展開について全体を把握できていなかったことがあげられていた。プログラムの内容と伝達方法の評価も比較的低かった。指導言語の重要性は体験を通じて強く意識されたようである。子どもに理解でき、かつ簡潔な言葉を選ぶ。説明や指示だけでなく、緊張をほぐす、意欲を喚起する、励ましな

表5 「指導振り返りシート（5段階評価）」による  
プログラム別自己評価

項目	プログラム						平均
	リズム・ 鬼ごっこ	クール ダウン	色々 ボール	仲間 づくり	フルーツ バスケット	サーキット	
ゲームの内容	3.5	3	2	2	2	3	2.58
時間配分	3	4	3	3	4	5	3.67
人数配分	3	3	4	3	3	4	3.33
空間使用	4	3	2	3	3	3	3.00
説明の内容	3.5	4	3	3	3	3	3.25
伝達方法	4	2	2	2	3	3	2.67
スタッフ連携	5	4	4	4	3	4	4.00
参加者反応	4	3	4	2	3	4	3.33
楽しさ	4	5	4	3	3	4	3.83
盛り上がり	3.5	4	4	3	3	4	3.58

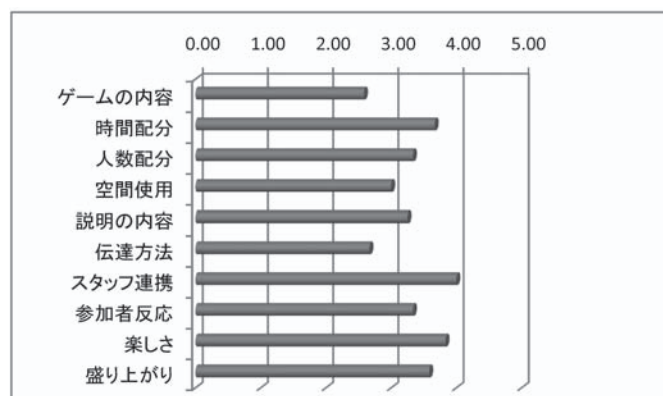


図1 「みんなで遊んで元気 up」指導学生による  
自己評価平均値

ど場面や子どもの様子に応じて声をかける難しさをあげた感想が多く見られた。

プログラム内容では走る、跳ぶなど躍動的な活動の方が楽しさ、盛り上がり、参加者の反応の評価が高かった。

## 2. 自由記述による気づき

自由記述では参加者の反応に関する感想が多かった（表6）。

指導実践では指導者と参加者、指導者同士など常に相互に関係性が生じる。紙上でのプログラム作成や学生同士によるリハーサルでは、指導経験の少ない学生にとって実際の反応を予測することは難しい。それだけに戸惑いや不安があるが感動も大きく、印象に残る活動になったと考えられる。

準備期間を計画的に使えず直前になり時間が足りなくなり修正や検討する時間が無くなったという感想も多かった。当日状況に応じて臨機応変に対応することが難しかった。

た。期間と時間は十分あったが、対象者の反応がイメージできないのでリハーサルも段取りの把握にとどまり、問題点を見つけられなかったことがあげられる。参加者が集まりはじめてからプログラム開始までの自由な時間の対応や、開始直後の緊張した雰囲気をはぐすといった、プログラム以外の場面の配慮も、実際の体験を通して意識化された点であった。

## IV. 今後の課題

今回の活動から、指導経験の浅い学生にとって、指導方法のトレーニングの機会となるだけでなく、実践の場でなくては得られない体験や気づきがあることが改めて分かった。また指導を通じて、子どもとの関係のみならず指導者同士も相手の行動を予測するなど、主体的にかかわることが要求される場面が多くみられた。学生が特に困難に感じたのは以下の3点であった。

### 1. 対象者の把握

対象者の能力や発達段階に応じた指導が大切であることは周知のとおりである。しかし、対象者に接する機会が少ない学生はプログラム作成段階でレベルを設定し、子どもの興味を引くか見通しを持てないことから不安になり、自信を持って子どもの前に立つことが難しい。知識だけではなく、多くの子どもと触れ合うこと、一人一人をよく観察し、理解しようとすることで徐々に対象者に合わせた指導が可能になる。事前に対象年齢の子どもの活動を見学する、過去に行われた指導場面のビデオを見るといっても不安軽減につながるだろう。学生が段階的に指導にたずさわるようにする事で、自信を持たせるようにしたい。そのためには、見学→補助的な役割→指導→評価というサイクルで体験を積めるよう年間計画を立て、実習の機会を増やすことが有効である。

### 2. 空間イメージ

単発のイベントであったため、慣れない場所で初めて会う対象者に準備したプログラムを合わせていくことになる。時間配分のように明確な指標がないため、リハーサルでも問題点が見つけにくかった。活動中の参加者の導線、指導者の立ち位置、安全で適切なスペースの確保はプログラム作成時に図示し、自分だけでなくサブリーダーとも共通に把握しておく必要がある。さらに、参加者が説明や活動に集中できて、目的とする運動を誘発する場の工夫が出来ると良い。

### 3. 指導言語

参加者の表情や反応を良く観察し、わかりやすい言葉



表6 「みんなで遊んで元気 up」指導後の自由記述（下線著者）

活動内容	各プログラムも子どもたちが楽しみながたくさん体を動かさせていたので、運動強度的にもちょうどよかったと思います。 「色々ボール」では、下に置いてあるボールを拾って箱に向かって投げることで、しゃがんで動いてという動作を自然にできてよかったと思います。
協力	ゼミのみんなで協力して行えて、大きなけがとか問題なく終われたので良かったです。 途中で変更したところもあったけど、コーチみんなで協力して臨機応変にできたと思う。
空間	体育館が小さかったがプログラムには影響がなかった 体育館に行ってからみんなで協力して準備できた 当日初めて会場を見たので、どれくらいの広さかまいちわかっていなかったのと、 <u>会場の使い方</u> をしっかりと考えていなかったのと、到着してからの準備に時間がかかってしまいました。
経験	初めて企画・準備・実施のすべてを行ってとても良い経験になりました。 指導案を作った時はいろいろな運動を取り入れた遊びを考えるのが少し難しかったけれど、本などを見て勉強することができたので、小さい子に対してスポーツを教えたいと思っていたのでよい経験ができたと思っています。 またこういう機会があったら、今回よりも自信を持ってやりたいです。
時間	全体的に時間配分は良かったと思います。
時間・安全	企画段階では、時間配分・対象者に適しているか・安全管理等について考えることが今まで未経験だったので難しかったです。 細かい時間設定や安全管理についてしっかり行うことが大切だと感じました。 安全面と時間配分をもう少し詳しく計画を立てればよかった。特に安全面は思っている以上にもっと深いところまで考えなければならぬんだと実際に指導してみて思いました。
指導	本番の日はかんべを見ずに、笑顔で行うことで参加者の緊張をほぐすことができるので、自分の緊張は隠すべきだと感じました。 参加者の目線に合わせて言葉も選び、わかりやすい指導をすることが大切だと思いました。 当日は4～6歳児の指導であっても人の前に立って話すということにまだ慣れていないため緊張した。 4～6歳児であるため言葉遣いであったり、子どもたちが興味ややる気を出してもらえるように進め方をしなければならぬとわかりつつもなかなかうまくいかず苦戦しました。 最初の子どものとかかわり方、導入の部分で少してこずりましたが、徐々に子どもたちからこっちに来てくれるようになりました。 はじめの声のかけ方を工夫してすぐに溶け込めるような雰囲気がつくれるように改善したい 担当したリズムと鬼ごっこは臨機応変にピアノ伴奏を長くしたり、スムーズにできた。 <u>早く受付をした子どもたちとどういう風に遊ぶのか</u> を考えていなかったのと、何となく出始めてしまった分、声をかけられなかった子もいて中途半端になってしまいました。 子どもたちの集合の仕方や説明方法が難しかったり、うまく伝えられなかった部分があったと思います。 プログラムだけではなく、そういった最初の段階も考えて柔軟に対応出来たら良かったと思いました。
準備	参加者に運動能力や病気のことで、どのような性格なのか等についてのアンケートを事前に実施することで（対象者に適しているか）フォローできると感じた準備の段階では、リハーサルをたくさん行って、修正をし、スタッフ全員が流れを把握していることが大事である 小さい子供たちを対象に指導するからこそ、もっと細かいところまで準備し、 <u>ここは大丈夫か、こうした方がよい</u> など、 <u>何度も何度も繰り返し確認して</u> 行うべきだとわかりました。 後半にあわせて準備をしたので、もう少し前から皆で準備をすればよかった。 準備の段階でもう少しプログラムをたくさん考え、そこから選べばよかったかと思う 準備期間を計画的に使うことができずに、最後までぎりぎりまで焦って間に合わなかった部分や足りなかった部分があったので、もう少し計画的に進めるべきだったと思いました。 次のプログラムの準備にも少し時間がかかってしまい、スタッフ間での理解度に差があったように感じます。 最初は「何とかなるかなあ」という考えで準備に取り組んでいましたが、実際に練習したり、日にちが近づくにつれて不安と緊張でいっぱいでした。 準備段階では、 <u>当日使うものをそろえるのが</u> ぎりぎりになってしまいました。もう少し前から準備をして余裕を持って当日を迎えることもできたと思いました。 リハーサルを重ねてもう少し改善してから臨むことができたかなと思いました。 当日参加できなかったのですが、準備を手伝ったりあそびの内容を考えたりしてみて、準備はもう少し早い段階からした方がゆとりを持てたと思った。 今回は時間がなくてせかせかしていた部分があったので次はそこを改善したら今回よりもっと良いものができると思った。
体験	指導する大変さや、事前準備の大切さなど体験してわかることがたくさんあり、良い経験をさせてもらいました。 実際に子供たちと触れ合えてわかることがたくさんあり、とてもよい機会になりました。
対象把握	教職の授業で模擬授業をやっていますが、対象が中高校生なので小さい子供の反応や動いてくれるかという不安がたくさんありました。 どのような雰囲気でもう指導していくか未知なもので正直どうしたらよいかわからなかったです。 指導する対象が4～6歳児で想像がつかなく、何ができるかすらわからない状況での（プログラム）作成であったためすごく大変でした。 準備段階では、もっと子供の状態を把握してプログラムを考えるべきだったと思う。 準備段階では4・5・6歳がどのくらいの身体能力なのかわからなかったのでプログラムの立て方が難しかった。
道具 道具・安全 道具・グループ	道具の準備（予備の準備）も実物を使い用意をしっかり行うべきである カラーの内盤がすぐべつところが危険だったと思いました。 それぞれのプログラム案は良かったとしてもそれに使う道具や配置の仕方、グループ構成等細かな部分にもっと目を向けて準備すべきだったと思った。
反応	後半には子どもたちも慣れてたくさん話しかけてきてくれたのでよかった。 <u>はじめは人見知りでなかなか笑顔を見せてくれなかったり、溶け込んでももらえなかったりして大丈夫かなーって思いましたが、思っていたよりもみんな楽しそうでもっとやりたーい！とか楽しい！とか、子どもたちがみんな笑顔で帰って行ってくれたので良かったですし、自分たちも楽しむことができました。</u> 最初はコーチも子どもたちも緊張していたけれど、プログラムをやっていくうちにうちとけていって、最後にはすごく仲良くなれたと思った。 慣れてくるとすごく話しかけてくれる子もいれば、あまり話ができない子もいた。プログラムをやっている時はみんな笑顔で楽しそうにやっていたのでよかった。 こっちは見てーと声をかけるとほとんどの子が前を見てくれたのでよかった。 当日子どもたちとなれるまでに時間がかかった 子どもたちも全体的には楽しんでくれましたが、自ら接してくれる子ではなく、おとなしい子にも、もっと声をかけたら盛り上がったかなと思います。 当日は千歳市の職員の方にも言われたように、 <u>出だし</u> があまり良くなかったと思いました。私たち自身でもっと盛り上げていかないと子どもたちも盛り上がりたないし、興味を持って参加できないと思いました。 プログラムの内容は子どもたちも楽しんで参加していたし、フルーツバスケットのメダルや新聞紙ボールを見て興味を持ってくれていたのがよかったです。 想像よりもみんな明るくうちとけやすかった。まとめるのは大変だけど中高生より反応が良くて、行動力でいえば子どもたちの方が良いなと思いました。 参加してみてもすごく楽しかったです。赤チームをまとめる係りをやったが、子どもたちがくっついてくれて、みんなが私の周りに来てくれた時はすごくうれしくてこういう仕事も楽しいかなと思うようになりました。 当日子どもたちは最初は緊張していましたが、プログラムが進むにつれてとても元気に楽しそうに活動していました。 もう1回やりたいという声も聞けて良かった
反応・楽しさ	コーチも楽しめたし子どもたちも楽しめたプログラムだった 私自身も楽しく過ごせたので良かったです。 コーチも楽しめたし子どもたちも楽しめた 全体として楽しくスムーズに進められた。 子どもたちはとてもかわいくて楽しそうに体を動かしていたのでよかったなと思いました。
方法	「色々ボール」をやっている時に最後にボールを数える時に数える人のタイミングがばらばらだった。4人が同じ場所に立って、子どもたちに残りのボールが見えないように数えた方が良かった。 コーチ全員が同じ色を着ていたの、鬼ごっこでオニをやるコーチの色を変えたほうがわかりやすかった。 改善点は境目がなかったのでボールの色が混じってしまいどすのに苦労した、こともたちが投げているボールが少なくなっていたところを直した方が良くとおもいました。

での的確な指示を意識する。録音や録画による記録を撮り、指導後に評価を行う。例として別の言葉に言い換えられないか、指示や説明以外の発語の割合等を確認する。

次年度は以上の点を改善し、学生が自信を持って指導に当たり、子どもたちが笑顔で夢中になって運動遊びに取り組めるようにしていきたい。

## 付 記

本研究は、平成23年度から平成25年度文部科学省「私

立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の助成を受けて実施したものである。

## 文 献

- 1) 増山尚美：スポーツによる地域と大学との連携．北翔大学生涯学習システム学部研究紀要，10：11-16，2010．